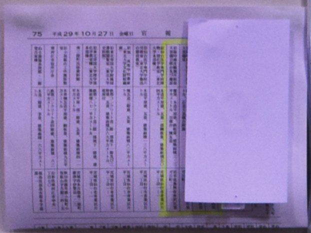


水沢・旧緯度観測所4建造物
登録有形文化財へ
近代科学の黎明期 研究者の営み今に
国審議会が答申
胆江地区で3カ所目
胆江日日新聞

小規模図書館でもできる
地域の古い建物を登録有形文化財にする方法

岩手県奥州市にある国立天文台水沢図書室は、週にわずか3回、午前中のみ開室するという小さなライブラリ。
職員は常勤（[illegible]）[illegible]名とパート（兼任）1名だけで、
レファレンスサービスや資料閲覧の請求をしてくる利用者もほとんどいません。
ところが、[illegible]の大学から研究者がやって来て、
「岩手県[illegible]にある古い建物4棟を国の登録有形文化財にするため、情報検索と資料検索をお願いできますか？」
と言って[illegible]から、さあ大変。
文[illegible]ライブラリアンは何をすればいいの？！

上：緯度観測所の本館（現・奥州宇宙遊学館）大正10年
左：臨時緯度観測所の本館（現・木村栄記念館）明治33年
中：眼視天頂儀室　明治32年
右：目標台　明治33年

4棟とも所在地は岩手県奥州市水沢区。
少子高齢化と人口減少が進む奥州市では
観光産業振興による経済活性化が課題のひとつとなっている。

地域の人々が愛する建物を保存・活用してゆきたい。

地域経済のために新たな観光資源がほしい。

歴史的建築の維持費が高くて困っているので、補助金がほしい。

ひとつでも当てはまる地域は
国の登録有形文化財制度の利用を
検討する価値あり。

申請準備では、
地域にある図書館が力を発揮します。

知らないと損！国の登録有形文化財制度のウソとホント

あなたもこんな勘違いをしていませんか？

ウソ

- 100年位たっている建物でないとダメ。
- 移築された建物は登録できない。
- 登録すると建物をリフォームできなくなる。
- 登録すると住めなくなる。
- 登録すると毎日のように見学者が来る。
- 登録すると維持費が今まで以上にかかる。
- 登録しても所有者に経済的メリットはない。
- 登録しても自治体に経済的メリットはない。

じつは規制が緩いので、自宅を有形文化財として登録する人も。

ホント

- 登録申請の対象となるのは築50年から。
- 移築された建物も登録申請可能。
- 外観の4分の1以下と内装のすべては届出なしにリフォーム可能。
- 登録後も今までどおり住み続けられる。
- 公開は所有者・住人のできる範囲で行えばOK。
- 修理に必要な設計管理費の半額を国が補助。
- 相続財産評価額（土地を含む）が3割も控除。
- 家屋の固定資産税が5割も減税。
- 登録した建物を活用した地域活性事業費の半額を国が補助。

国の登録有形文化財になるまで

所有者、管理者、市町村教育委員で申請の意思を確認
↓
市町村教育委員会が都道府県教育委員会に連絡
↓
文化庁調査員による現地調査
↓
市町村教育委員会が文化庁に必要書類を提出
↓
国の文化審議会が審査して結果を文部科学大臣に答申
↓
国の登録有形文化財となったことを官報で告示

提出書類

- 都道府県の進達書
  - 都道府県の教育委員会が作成
- 市町村の意見書
  - 市町村の教育委員会が作成
- 所有者の同意書
  - 建物の所有者が作成
- 登記事項証明書
  - 法務局で写しを取得
  - 法務局サイトからでも取得可能
- 所見
  - 年代、建築様式、歴史的価値の説明
- 図面
  - 位置図、配置図、平面図、求積図、通常望見範囲図の5種
- 写真とそのクレジット
  - 1件あたり10枚くらい

まずは文化庁のサイトから有形文化財制度のパンフレットをダウンロードして読みましょう。わかりやすく書いてあります。

わからないことは市町村の教育委員に相談。文化財登録申請の強い味方です。

文化財建造物所有者の会という市民グループで先輩方の話を聴くと参考になるかもしれません。

1　建物の所有者、管理者、市の教育委員についての情報を提供

Q.1 臨時緯度観測所の旧本館、緯度観測所の旧本館、眼視天頂儀室、目標台の4棟について建物・土地の所有者・管理者を知りたい。

Q.2 これら4棟の文化財登録申請について奥州市の教育委員会に相談したい。

A.1 緯度観測所の旧本館はが奥州市が所有、指定管理者のNPOが管理。それ以外の建物と土地は国立天文台が所有。

A.2 教育委員1名と元教育委員1名を紹介。

登録申請を提案した利用者（馬場）と
所有者・管理者の方々でミーティング。
国立天文台水沢図書室が紹介してくださったおかげで
すぐに関係者が集まりました。

「あんなに痛んだ建物が、国の登録有形文化財になるの？」
「登録文化財と指定文化財って違うの？」
「曳家で移築していても登録できるの？」
「登録したら改築できなくなって、不便になるのでは？」
建物の所有者である国立天文台の方々から
たくさんの質問が出ました。

2　建物に関連する文献を紹介

Q.3 臨時緯度観測所と緯度観測所の沿革や建物の用途・配置についての説明が記された文献があれば、教えてほしい。

A.3 建物配置図が収録された『緯度観測75周年誌』『緯度観測所要覧』、緯度観測所元所員らのエッセイをまとめた『想い出集　緯度観測開始100年を記念して』を紹介。

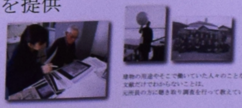
沿革や建物配置の情報が記載された出版物は
どれも非売品で入手困難でしたが、
幸い国立天文台水沢図書室に収蔵されていました。
「あの建物が当時こんな風に使われていたのか！」
と、それらの文献を読んでみると、発見の連続でした。

左は、利用者閲覧用に出納したのに、
ついつい自分が夢中になって読み入ってしまう
国立天文台水沢図書室職員の石川さん（笑）

3　建物の沿革や用途に詳しい有識者についての情報を提供

Q.4 臨時緯度観測所と緯度観測所の建物について、沿革や用途がわかる方からお話をうかがいたい。

A.4 昔の緯度観測所を知る元所員や緯度観測所OB・OG会を紹介。

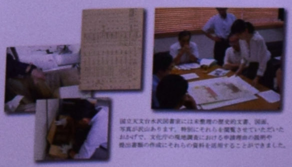


建物の用途やそこで働いていた人々のことなど
文献だけでわからないことは、
元所員の方に聞き取り調査を行って教えていただきました。

4　歴史的な文書・図面・写真の閲覧を許可

Q.5 臨時緯度観測所と緯度観測所の建物について、竣工年月日がわかる明治大正期の文書、当時の見取り図、往時の姿を記録した写真があれば、閲覧したい。

A.5 明治大正期の文書、図面、写真は未整理のまま目録化されずに倉庫でダンボール箱に詰められている。それでもよければ閲覧可。



国立天文台水沢図書室には未整理の歴史的文書、図面、
写真が沢山あります。特別にそれらを閲覧させていただいた
おかげで、文化庁の現地調査における申請理由の説明や
提出書類の作成にそれらの資料を活用することができました。

5　登記簿や最新図面についての情報を提供

Q.6 臨時緯度観測所や緯度観測所の建物について、登記簿の写しが取得できるところを教えてほしい。

Q.7 臨時緯度観測所や緯度観測所の建物について、近年作成された図面があるかどうか知りたい。

A.6 奥州市内に盛岡地方法務局の水沢市局があるので、そこで取得できる。

A.7 臨時緯度観測所と緯度観測所の各旧本館は耐震工事や移築の際の図面がある。

国の登録有形文化財の申請でネックとなるのが図面の作成
です。文化財登録申請のためには登記簿写しなどのほかに
各種の図面を提出する必要があります。しかし、建築事務所
などに図面作成を依頼すると何十万円もかかってしまいます。
そこで、ここ数年のうちに作成された図面を利用できないかと
考えましたが、存在するのはごく一部だけであるとわかり、
結局プロに新規に図面の作成を依頼することになりました。

国立天文台水沢図書室の職員と利用者の努力が実り、
4件の建物が2017年10月27日に国の登録有形文化財となりました。
岩手県奥州市の古い建物が、新たな観光資源として生まれ変わります。

国立天文台水沢図書室ライブラリアンの声

国立天文台水沢図書室の利用者は従来電子ジャーナルのみを使用することが多く、歴史的な文書・図面・写真については特に整理や保存修復を行ってきませんでした。

しかし、有形文化財登録の準備に携わり、自館が収蔵する文書・図面・写真が重要な歴史資料であったことを理解しました。今後は文献等の整理・保存・修復・公開にも力を入れてゆきたいです。

文化財登録に関する情報検索・資料検索ははじめてでしたので、わからないことは大学の研究者や歴史に詳しい市民に相談し、協力を求めました。

図書室職員だけで解決しようとしていたらここまで順調に文化財登録申請の支援ができなかっただろうと思います。利用者を支援をするためには図書館職員が支援を求めることも大切だと学びました。

図書室に有形文化財登録申請の支援を求めた利用者の声

緯度観測所の元所員の方々をご紹介いただいたおかげで、各建物とその内部の各所について貴重な証言を得ることができました。

また、倉庫にあった未整理の文書、図面、写真も利用させていただけたおかげで、文化庁による現地調査でも登録申請の理由をスムーズに説明することができました。

利用者の多い大規模図書館ではレファレンスサービスの調査期間は1週間と決められている場合が多く、答えが出なくても調査が打ち切りになってしまうことがあります。

幸い、国立天文台水沢図書室は規模が小さいため調査期間に制限がなく、長期にわたって協力していただけました。

第19回図書館総合展ポスターセッション　2017年11月7日（火）〜9日（木）　於：パシフィコ横浜　馬場幸栄（お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所／一橋大学附属図書館）・石川利江（国立天文台水沢図書室）
本研究は、JSPS 科研費 16K01159、お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所平成27・28年度研究費、国立天文台平成28年度事務研究費、一橋大学附属図書館研究開発室運営費の助成を受けたものです。